

中部支部巡検会 : 北陸に恐竜化石産地を訪ねる

著者	井出 志津夫
雑誌名	静岡地学
巻	93
ページ	21-23
発行年	2006-06-18
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00024830

中部支部巡検会 —北陸に恐竜化石産地を訪ねる—

井出志津夫

中部支部では昨年10月29日・30日、石川県・福井県・岐阜県にまたがる手取層群を訪ねた。

日本の恐竜発掘研究のきっかけとなったのは、石川県白峰村（現在白山市）の化石壁から発見された1本の恐竜の歯だった。この化石壁は手取層群の桑島層に属し、中生代の植物化石が大量に残された場所として有名で、化石を産するむき出しになった壁は「化石壁」として国指定の天然記念物となっている（図1，2）。その壁の下に落ちていた石を、家族と来ていた中学生の少女が拾い、家の風呂場で洗っていたら、落ちた拍子にきれいに光る黒い化石が出てきたのだ。それが学校に持ち込まれ、先生が「これは」と福井県立博物館に持ち込んだのである。この黒い化石が肉食恐竜の歯とわかり、化石壁の再調査が行われ、もう1本の歯の化石と足跡の化石が発見された。

白峰村の発掘調査は継続され、化石壁の裏側にトンネルを掘る工事をするという名目で大量の岩が掘削され、化石を含む岩石の緻密な調査が行われた。そのため、従来見逃されてきた貴重な化石が次々と発見された。ヒブシロフィドン類の頭骨やオビラプトル類の化石をはじめ、原始的なほ乳類や、白亜紀はじめに絶滅していたと考えられていたほ乳類型は虫類の化石も発見された。これらの成果は白山恐竜パークに展示されていた。

桑島層は模式地の白峰村桑島を含む手取川流域の他、岐阜—石川県境の白山の南側地域にも分布する。主に頁岩・砂岩互層で頁岩勝ちである。砂岩はときに礫質となりチャートや片麻岩の円礫を含む。また、下部には何枚かの薄い石灰岩層をはさむ。最上部には層厚20 mの油を含む黒色の頁岩をのせている。



図1. 天然記念物の表示がある「化石壁」。



図2. 対岸より桑島層「化石壁」を望む。

この桑島層は各地に動植物化石がふくまれ、特に植物化石についての研究は、日本で初めて行われている。植物化石としては、シダ、ソテツ、球果類などが多く含まれる。立木化石も発見されているが、上流沢沿いにあるため土砂の流入が激しく、発見されても埋まってしまう、ふたたび見つけるのに苦労する。われわれが訪ねた折も、表示板を頼りに行った先で行きつ戻りつしたが表示された立木化石を見つけることはできなかった。

民宿に宿をとり、夕食で会員同士の親好を深めた。朝早く起きて村内を散策した。家々の玄関が引っ込んで作られたり、玄関を覆うアルミハウス、家の側面の板をはめ込んで家を守る仕組みなど、豪雪地帯ならではの工夫を発見したりできた。また、小さな集落なのに歴史を感じさせるお寺が3寺もあり、旧白峰村の過去をひもといてみたい衝動に駆られた。

2日目は、福井県立恐竜博物館を訪ねた(図3)。白峰村での歯と足跡の発見を受けて、福井県立博物館では、同じ時代の地層が福井県の勝山市にも続いていることに注目した。深い山の中の北谷と呼ばれる川沿いの崖(図4)から、以前、ワニの化石を見つけていた。1982年から県の事業として発掘調査が始まった。やがて、恐竜の歯、背骨、腕の骨などを見つけた。その結果、日本で発掘された化石として、初めて、恐竜の全身骨格が復元された。それぞれ、草食恐竜はフクイサウルス・テトリエンシス(*Fukuisaurus tetoriensis*)と、肉食恐竜はフクイラプトル・キタダニエンシス(*Fukuiraptor kitadaniensis*)と命名された。

他にも、竜脚類の歯や足跡、翼竜の足跡、タマゴ化石がたくさん見つかっている。これらの成果を元に、日本最大の恐竜博物館が2000年7月に開館した。4,500 m²という広大な展示室に30体以上の恐竜骨格が展示される「恐竜の世界」, 「恐竜のからだとくらし」, 対面スクリーンの「ダイノシアター」, 「中国四川省の恐竜たち」, 「日本とアジアの恐竜」などのコーナーがあり、千数百点もの標本がある。

この日はこれらの常設展示の他に、特別展「大空に羽ばたいた恐竜たち展」が開催されていた。

中国遼寧省西部から河北省北部にかけての地域から、保存状態のきわめてよい羽毛恐竜や鳥類、ほ乳類などの化石が産出した。これらの化石を中国地質科学院地質研究所の協力を得て世界初公開されていた。2004年アジアで初めて発見された始祖鳥類の華美金鳳鳥(ジンフェンゴプテリクス・エレガン

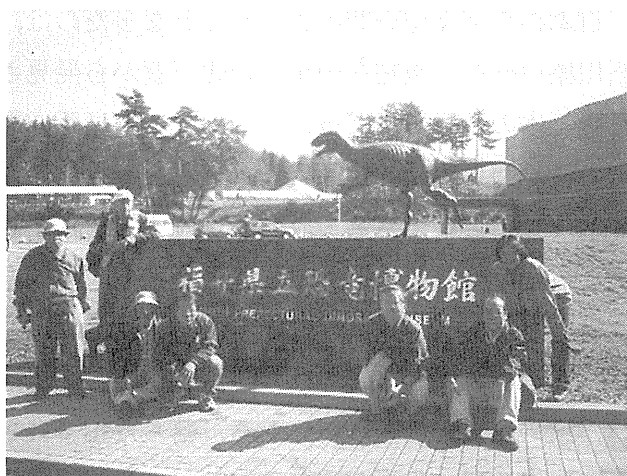


図3. 福井県立恐竜博物館前にて。



図4. 秋の白峰村。

ス；*Jinfengopteryx elegans*) の化石をはじめ、尾羽鳥（カウディプテリクス；*Caudipteryx*）、中華竜鳥（シノサウロプテリクス；*Sinosauropteryx*）、孔子鳥（コンフキウソルニス；*Confuciusornis*）、小盗竜（マイクロラプトル；*Microraptor*）、このほか始祖獣とされるほ乳類のエオマイア（*Eomaia*）などの化石が展示されていた。さらにドイツ・ジュラ博物館の協力を得て、アーケオプテリクス（*Archaeopteryx*）はじめ始祖鳥類や翼竜など、ドイツのゾルンホーフで産出した化石が日本初公開されていた。常設展示を含め、とても1日では見切れない内容であった。帰りは紅葉の季節でもあり（図5）、福岡県民祭の時期とも重なり大渋滞であった。



図5. 勝山市北谷の発掘現場.